

春風秋霜

江利川毅 県立大理事長



新緑の爽やかな5月。良い季節であるがこの時期特有の「五月病」に苦しんでいる人も少なからずいるのではないか。五月病とは、4月に入った大学新生や新入社員などに5月ごろに見られる、新環境に対する不適応病状の総称である。大学1年生について言えば、高校時代は大学受験という勉強の目標があったが、大学に入ってそのような学習の目標を見失ってしまうことも一つの要因ではないかと思ふ。

私は長く国家公務員として仕事をしていたが、人事院総裁を辞めた翌年度から埼玉医科大学の特任教授になり、医学部の1年～4年の各学年に1度ずつ特別講義をしている。また昨年4

「5月病」に思う

人たる所以を学ぶ

やり過(こ)してしまった。人間のあり方の基本に係わる事柄には多くの先人も悩み考えている。だから歴史に飾(ふる)われながら存在し続けてきた古典の中に先人の答えや考えるヒントが残されている。

■「習つ」とは命懸け
学ぶことに触れている古典の代表格は『論語』である。その冒頭の「学びて時に之を習つ、また

やり過(こ)してしまった。人間のあり方の基本に係わる事柄には多くの先人も悩み考えている。だから歴史に飾(ふる)われながら存在し続けてきた古典の中に先人の答えや考えるヒントが残されている。

■「実践」は問題解決力
県立大学は看護、理学療法、作業療法、社会福祉子ども学などの学科を有し、各学科の教育目標がはっきりしている。五月病になる人は少ないかもしれないが、1年生には以上を踏まえ、松陰は「学は人たる所以(ゆえん)を学ぶなり」と言っている。人として大切なことは何か、人はいかにあるべきかを学ぶとのことである。志を持った学びである。自分が立派な人間になるために学ぶのであるから、つまり

月から埼玉県立大学の理事長を務め、今年4月に1年生全員と看護学科の4年生に特別講義を行った。大学は学ぶところである。1年生には、その「学ぶ」

た説(よる)こばしからず乎。朋有り遠方より来たる、また樂しからず乎。人知らずして慍(い)か(ら)ず、また君子ならず乎はご存知の方も多と思う。私は中学の国語の教科書でこの言葉を初めて知った。「学んでときことを身に着けられなかったら、餌を自分で取ることができず死んでしまう。だから身に着題解決に貢献できれば心の底からうれしいと思ふのではないか」という説明を

か。論語の冒頭の言葉はそのような意味である。「この大学で志を持って一生懸命学習して、進む分野の第一人者になつて欲しい」。なお、論語の「悦は悦」と同じで、心の底からうれしいと感じるという意味である。

この意味や本学の学生として持つべき目標をしっかりと自覚してもらいたい、そういう思いを込めて話をした。

た説(よる)こばしからず乎。朋有り遠方より来たる、また樂しからず乎。人知らずして慍(い)か(ら)ず、また君子ならず乎はご存知の方も多と思う。私は中学の国語の教科書でこの言葉を初めて知った。「学んでときことを身に着けられなかったら、餌を自分で取ることができず死んでしまう。だから身に着題解決に貢献できれば心の底からうれしいと思ふのではないか」という説明を

か。論語の冒頭の言葉はそのような意味である。「この大学で志を持って一生懸命学習して、進む分野の第一人者になつて欲しい」。なお、論語の「悦は悦」と同じで、心の底からうれしいと感じるという意味である。

学ぶとは何か。何のために学ぶのか。基本的な問いであるが、なかなか的確には答えられない。私も高校・大学時代に何の目標も持たなかった。喜ばず死んでしまう。だから身に着題解決に貢献できれば心の底からうれしいと思ふのではないか」という説明を

か。論語の冒頭の言葉はそのような意味である。「この大学で志を持って一生懸命学習して、進む分野の第一人者になつて欲しい」。なお、論語の「悦は悦」と同じで、心の底からうれしいと感じるという意味である。

(次回は6月15日付)